

# 地域の方からの学びから広がる交流の輪

～土曜参観・親子体験教室～

## 1 目的と経緯

本校では、長きにわたり授業参観後に体験教室を行ってきた。平成10年(1998年)に「日曜参観・地域の人から学ぼう集会」から始まり、平成17年(2005年)から「土曜参観・親子体験教室」となり、今年で20年目を迎えた。児童・保護者はもちろん、講師でいらっしゃる地域の方々も楽しんでいる会であり、地域と学校、地域と児童・保護者がつながる貴重な機会である。

- 目的
- ・地域の方から、活動や体験をとおして、様々なことを学ぶ。
  - ・親子で体験活動をするにより、ふれあいを深める。

## 2 内容

- ・講座に分かれて親子で体験活動を行う(1時間30分)。今年度は5つを開設。
- ・講師は校区内地域の方を中心に、校区外にも範囲を広げてお願いしている。
- ・毎年違う講座への参加を呼びかけ、各家庭へ事前に希望をとり、各講座の人数を調整する。
- ・各講座の主担当の教師が、講師との連絡調整と打ち合わせ、当日の講座運営を行う。



絵手紙



防災グッズ



手芸



しめ縄



ウッドクラフト

2025年10月26日(日)  
山梨日日新聞より

地域住民講師に  
親子で制作体験  
都留・谷村一小で教室  
都留・谷村一小は、地  
域住民を講師に招き、児童と  
保護者が手芸や工作などに取り  
組む「親子体験教室」を開  
いた。  
交流の機会にしようと、土

## 3 成果と課題

○地域の方と児童・保護者がものづくりを通してつながる素晴らしい機会である。ものづくりをすることで自然とコミュニケーションが生まれ、学校・児童(保護者)・地域が互いを理解し合え、連携をより深めることができている。

△講師が高齢化しており、今後も継続していくには、その講座の後継者を確保する必要がある。また新しい講座を開設できるような新たな人材の確保も不可欠である。

\*コミュニティスクールとして2年目を迎えた本校として、持続可能な親子体験教室の在り方をはじめ、様々な特技をもつ地域人材の発掘、さらに現存の行事や新たに始める行事における地域交流の可能性を、学校運営協議会で現在も熟議を重ねている。

「防災グッズ」の教室では、市内の防災士4人らが児童らにペットボトルランタンの作り方を教えた。児童らはペットボトルをセロハンで飾り付けて水を満たし、懐中電灯の上に置くことで光を拡散させるランタンを制作した。写真。4年生の陳泰興さんは「実際に停電のときは作り方を思い出して明かりをとりたい」と話していた。

〈武田真明〉

